

小学6年生

文章読解に



べつ さつ
別冊

解答書

- ・ () は、答えにあってもよいものです。
- ・ < > は、別の答え方です。
- ・ 例 は、答えの例を示しています。
- ・ 答えといっしょに、解説も読みましょう。
- ・ 答えに文字数などの指定がない場合、習っていない漢字は、ひらがなで書いていても正解です。

1 火星・生命

3 タフ

4

5 例地球生命にとって生存することが難しいところ。
探査機・微生物

6 イ

2 A エ C オ

! 解説

1 第一、第三段落で、海があることによって、火星も地球と同様に生命が誕生したと考えられると説明されています。

2 A 直前の内容から導かれることが直後に述べられているので、「ですから」が入ります。

C 「地下深くの、水が流れているような環境下」という具体例を後で挙げているので、「たとえば」が入ります。

3 直後に月に行った地球生物が生き延びたということが書かれており、最終段落に「このように生命はタフですから」と述べられています。

5 ②の前の「そのために」は、直前にあるように、探査機の殺菌ができないために、ということを書いています。

6 前の段落までに生命が「タフ」であることが述べられ、そのことから、地球とは異なる厳しい環境である火星でも、生命が生き延びている可能性があるとして述べられています。

1 文章・大切

2 先、先々いい。

3 一方的・身勝手

4 イ

5 例読む人にとって興味深く、知的な刺激を感じられるような文章。

! 解説

1 「文章」について、「料理」と比べたりとえたりしながら、何が大切かを述べています。

2 直前の内容を指しています。読む人に「そういう気持」を与えるものが「名文」だとあります。

3 直後に「自分の書きたいことを……親切心が足りない」と述べられています。

4 直後の段落の「おもしろいという……ないわけではないが」、「ここで言っているおもしろさ」は別のもの(＝相手の関心をひくもの)だという説明に注意しましょう。

5 筆者はどのような文章が「おもしろい」と考えているのかを明らかにしてまとめましょう。

1 例自由とは何か

2 原因・電気の回路

3 例あらかじめ原因があつて起こることではないから。

4 イ

5 原因・(理論上は) 自由がはたらく余地・自由(というもの)

! 解説

1 ①の段落に注目しましょう。

2 「同じだ」とは、直前の「どのような出来事にも原因がある」を受けています。

3 直後の「『自由』とは」以下で述べられている内容を読み取りましょう。

4 直後の段落で、「例えば」と例を挙げて説明されています。

5 直前の「そう考えたときに、」の「そう」の指示内容を読み取りましょう。

1 アタマかたくなってる

2 例鳥の視点で世界をしてみることに。

3 三原色・四原色 ④ ウ

5 例見える世界がちがえば、知識や考え、発想もちがうので、人間同士も、人間と鳥のように視点がちがうと捉えておくとよいということ。

6 例同じ本を読んだ友達が、これは悲しい話だと言ったのでおどろいた。わたしは、こっけいな話だと思っただからだ。

! 解説

1 第一段落に注目しましょう。

3 第三段落に人間と鳥の見え方のちがいが述べられています。

4 「紫外線」は鳥には見えませんが人間には見えません。直前に「紫外線で見えない模様」とあるので、「まったく見えない」が入ります。

5 「そう」の内容は直前に書いてあります。さらに、②——の内容は直後で説明されています。

6 「自分にとっての見え方がすべてではなくて、他人には別の見え方があるかもしれない」などあるように、さまざまな見方・捉え方があるということ、筆者は述べていました。

1 A エ B ウ C イ

2 例 おたがいの希望がぶつかったとき。

3 不満・やっつけていける解決

4 ウ

! 解説

1 A 直前の「おたがいの希望がぶつかります」の例が後に続くので、「たとえば」が入ります。

B コミュニケーションの技術の大切さから、コミュニケーションが得意になる方法に話題が変わるので、「では」が入ります。

C 直前の、昔は自然とコミュニケーションの技術がみがかれたという内容に対して、直後には、最近の人はコミュニケーションが苦手になっているという、逆の内容が続くので、「でも」が入ります。

2 「そういうとき」は「おたがいの希望がぶつかります」を受けています。

3 直前の段落で述べられていた、「おたがいが少し不満だけど、とりあえずやっていける解決を見いだせる」ことを指しています。

4 「そうして」は、人とぶつかりながら「コミュニケーションの練習」を重ねて上達していくという直前の内容を指します。

1 イ 2 実力を蓄える練習の段階

3 A ア B イ C ウ

4 いざ・学び方を学ぶ

5 例 人間の探究心や努力が受け継がれてきたことを実感すること。

! 解説

2 「それ」が直接指すのは「練習を積み上げる段階」ですが、字数がちがうので、十一字で言いかえた表現を探します。

3 A 直前の、学校での勉強は練習段階だという内容を受けて、直後の、すぐに役に立たなくてよいという内容が順当に続くので、「だから」が入ります。

B 直前の、「いざ」というときに学ばいいという内容に対して、直後には、「いざ」というときには、何が正しいか判断できないという、逆の内容が続くので、「しかし」が入ります。

C 前と後で、「学ぶ」「目的」を並べて説明しているので、「また」が入ります。

4 直前の段落で述べられていた、「いざ」というときの「学び方を学ぶ」という勉強の目的を受けています。

5 「そのような」と直前の内容を指して、「人間の歴史的な知的活動」と述べています。

1

A しかし

B だから

2

情けない

3

【例】植物にとって、花を咲かせて、種を残すことも大切だということ。

4

ア

【例】失敗したときに、無理に同じ方法が続けるのではなく、目的を果たすための工夫をすることが大切だと思いました。

5

! 解説

1

A 直前の、一度くらいは立ち上がるという内容に対して、直後には、何度も踏まれると立ち上がらないという、逆の内容が続くので、「しかし」を書きぬきます。

B 直前の、花を咲かせて、種を残すことが大切という内容を受けて、直後には、踏まれたら立ち上がらないという内容が順当に続くので、「だから」を書きぬきます。

2

「そう」は、立ち上がらない植物を「何だか、情けない」と思うかもしれないという内容を受けています。

3

「そう」は、植物にとって大切なのは、花を咲かせて、種を残すことだという内容を受けています。

5

花を咲かせて、種を残すという目的のために、無理に立ち上がらない雑草のあり方から、考えたことを書きましよう。

1

玄関

2

ウ

3

頭からすっくつけている

4

【例】女の子が祖父にハグアンドキスの挨拶をしたから。

! 解説

1

要約部分に、佑が「デイサービスについていった」とあり、文章の初めに、「玄関は、く広がった」とあるので、デイサービスの玄関での出来事だと分かります。

2

① —の後に注目しましょう。佑は、「こんなのをおじいちゃんがはくなんて」と思い、いたたまれない気持ちになっています。「こんなの」とは、その前の、「小学生が学校ではく、室内用のシューズ」を指しています。

3

女の子の様子は、② —の後のまとめりで説明されています。女の子が他の人と同じ姿勢だったため、見返してしまったので、「頭からすっくぱりと布をかぶっていて、そのはじめ、首にぐるっと巻きつけている」の部分を書き出します。

4

③ —の直前に、「ハグアンドキスの挨拶を、初めてリアルで目撃して」とあるので、佑たちは、ハグアンドキスの挨拶を見てあげたにたれたと分かります。指定されている言葉に気をつけて、だれがだれに挨拶をしたのかを入れてまとめましよう。

5

1 お寺・だるまさん転んだ

2 在所の納屋にあった子供用自転車

3 例誰かにうしろで持っていてもらわないと漕ぎ出せないから。

4 例肩の力を抜く。

例背筋を伸ばす。へ重心を腰に乗せる。へ

例遠くを見る。へ真正面を見る。・下を向かない。へ

※順序がちがっても正解。

5 ア

！解説

2 二つ目のまとまりに、「在所の納屋にあった子供用自転車を借りて引いて行った」とあります。

3 「雅夫は恵子ちゃんに自転車の練習を手伝って欲しいと頼んだ」の直後の文に、頼んだ理由が書かれています。

4 雅夫の練習を手伝っているときの恵子ちゃんの言葉から読み取りましょう。「肩に力が入り過ぎ。もっと力を抜いて」「背筋を伸ばして」「もっと遠くを見るの」と言っています。

5 ②——の直後の「雅夫は初めての経験に興奮した」に注目しましょう。「初めての経験」とは、初めて自転車で乗ったことです。

1 例水脈をあてれば、一年中その井戸の水はかれることはない

2 父親・母親・井戸掘り・やぐら

※「父親」「母親」は順序がちがっても正解。

3 滑車・土砂・ロープ

4 イ

5 例母や祖父にバス賃を出してもらったことを負い目を感じ、そのお金の分を返したいと思う気持ち。

！解説

1 「そう」は、①「そう聞いたことがあった」のすぐ前の「この時期に井戸を掘ってられることはない」の一文の内容を指しています。

2 ②「きのうから」をふくむまとまりとその後のまとまりに注目しましょう。きのうからきょうまでにだれが何をしたのかが説明されています。

3 「あしたは日曜なんだから、たくやも手伝え」とあるので、たくやは、あしたすることを手伝うように言われています。あしたすることは、「いよいよあしたから、」で始まるまとまりから読み取りましょう。

5 井戸掘りを手伝うように言われたたくやは、いつもは遊びに行く時間を作るのに、今回は手伝おうとしています。「理由はこの前の日曜日にあった」の後の部分から、たくやにどんなことがあって、そのためにどんな気持ちなのかを読み取りましょう。

1 視力・メガネ・ゆがんで

2 ウ

3 例 意外と短いので、そんなに難しい手術ではないのかもしれない。

4 イ



解説

1 「手術が成功すれば、」で始まる二文から読み取りましょう。

2 ①——の後の少年の様子や心の中の言葉に注目しましょう。少年はどきどきして、目の手術をアツシがどうとらえているのかは訊けずにはいますが、目の手術が失敗することを考えて、アツシがその前に海を見たがっているのではないかと考えているのです。

3 ②——の直後の二文から読み取りましょう。

4 情景には、登場人物の心情が重ねられていることがあります。「風景は、揺れながらゆがんでいた」という表現から、少年の不安な気持ちを感じられます。

1 (1) くだびれる・帰ってくる

2 ア

3 例 家族の顔が見たいから。

4 イ



解説

1 (1) ①——の前後の、夫と家族とのやり取りをよく読みましょう。

2 海外出張から帰ってすぐに北海道に行かなくてはならないのに「いったん家に帰ってくる」と言う夫に対して、「身体がくだびれるから羽田か都内のホテルに泊まった方が楽でいい」と思っている家族は、「ばっかみたい」と言っています。

3 (2) 夫は、いったん家に帰ってくる理由として、「俺はお前たちの顔を見たいんだよ」と言っています。

4 後に「あたたかい響きだった」とあるので、には、「あたたかい響き」をたとえる表現が入ります。

5 「私」が思い出したことは、②——の後に書かれています。

6 家族の顔が見たいから家に帰ることに「なんか文句あるかッ」と言った夫に、息子と娘は、「ある訳がない」と言い、「みんな真っ赤」になっています。これらの言葉や様子から、家族が夫の愛情を受け止め、照れながらもうれしく思っていることが分かります。

1 イ

例 自分のチームに欲しい人間を交互に取っていきやり方。

(2) 例 いつも最後まで名前を言われないので、落ち込む気持ち。

3 ア

4 例 球が飛んでこないことを願う気持ち。

! 解説

1 隼人について説明している、最初のまとまりに注目しましょう。「説得して歩く、穏健なクラスのリーダー」とあります。

2 (1) ①——の直後の文に注目しましょう。

(2) ①——の後から隼人の気持ちが変わる部分を探すと、「野球をする前にすっかり落ち込む」「へこむ」という表現が見つかり、落ち込む理由である、「隼人はいつも最後まで名前を言われたい」を入れてまとめます。

3 ②——の前で、隼人は、同じチームで野球が上手い龍平から、「九番でセンター」「球きたら、直接ささなくていい」と指示されています。自分が全く期待されていないことを感じて、惨めな気分になっていると読み取れます。

4 ③——の直後の隼人の心の中の言葉から読み取りましょう。「神様、どうか球が飛んで来ませんように」と願っています。

1 リュックを

2 どうだっていい・投げやり

3 例 塀を超えたら異次元かもしれないという空想。

4 ア

5 例 桜のほのかなさ、香り、幹の強さすべてに心をうばわれ、打ちのめされる気持ち。

! 解説

1 塀の外から塀の中へ場所が変わるので、「僕」が塀の内側に入ったことが書かれているまとまりから後半になります。

2 ①——の直前に「そんな投げやりな気分」とあります。「そんな」が指している前のまとまりの内容を入れてまとめましょう。

3 ②——の直前の「僕」の心の中の言葉から読み取りましょう。

4 「僕」が、 のようになった理由は、塀の中の光景が「ある意味で異次元だったから」です。予想と大きくちがう光景が広がっていたと読み取れるので、「非常におどろいて、はっとする」という意味の「息を呑む」が当てはまります。

5 ③——の後から、「僕」の気持ちを読み取りましょう。「指の先までこわばらせて、く見入っていた」、「すべてに打ちのめされた」から、桜を見てしよげきを受け、心をうばわれていることがわかります。

- ① (1) 目立つ野生動物
(2) 目立たない生き物
長いくちばし・静止・蜜
- ② 8
- ③
- ④ ア

! 解説

- ① (1) 「わかりやすい動物たち」も内容は合っていますが、字数が合いません。
- (2) 「ふだん人間が……雑草のようなもの」を八字で言いかえっている表現を探します。
- ② 直前に「だから」とあることに注目して、前の部分から風蘭とスズメガの関係を読み取ります。
- ③ 第⑧段落の最初に「つまり」とあるように、この段落で筆者は、ここまで述べてられた内容をまとめ、意見を述べています。
- ④ 風蘭とスズメガの関係をもとに、最後の二つの段落で、地球の生物が関連し合っているということが述べられています。

- ① 日本人は自
それは、そ
- ② アメリカー人 イ 日本人 エ
- ③ アメリカー人 ア 日本人 ウ
- ④ **例** 日本人が自己主張が苦手なのは当然であり、その代わりに日本人は相手の意向や気持ちを汲み取るこ

! 解説

- ① 直後の一文にある「くからだ」という言葉に注目しましょう。
- ② 「アメリカ人」は第四段落、日本人は第六段落に、コミュニケーションの最も重要な役割が述べられています。「自己主張」については、「自己主張」という言葉に注目しながら、「アメリカ人」と「日本人」のちがいを読み取りましょう。
- ③ 第一段落に、日本人が自己主張が苦手であるのには理由があり、また、それは悪いことではないと述べられています。それは第三段落にあるように、「自己」のあり方がアメリカ人とは違っているためです。

① 3

② イ

③ (1)

例 出された結論に対して、居合わせた全員で責任を共有するもの。
腹芸

④ ア

⑤ A

⑥ 空っぽ

⑦ 信号というルール・事故・一定のルール・ケンカ

⑧

例 「暗黙のコミュニケーション」は、自分の意見を言葉や行為に出さずに済むので楽だし、意見の衝突を防げるのはよいと思うが、曖昧さなどのマイナス面もあるので、人とコミュニケーションをとるときは気をつけたい。

! 解説

① ①・②の段落では、日本の会議の様子が説明されています。

② 直前の段落から、代名詞などを用いた、参加者にしか通じないやりとりがされていることが読み取れます。

③ (2) 直後の段落に、「これも腹芸の一種だろう」とあります。

④

直後の段落で、「誤解を招く危険性の高さ。責任の所在を明らかにしない曖昧さ。」を「そうしたマイナス面」と述べていることに注目しましょう。

⑤

A 直前の段落では日本のコミュニケーションは「わかりにくい」とあるが、直後では「非常に高度」だとあるので、「しかし」が入ります。

C 直前の「意味の交差点」についての説明を受けて、直後で「意味の交差点」に「空っぽの空間」があった場合のことが述べられているので、「では」が入ります。

⑦

コミュニケーションにおいても、道路の交差点と同じように、ルールに従っているということを述べています。

⑧

この文章では、「暗黙のコミュニケーション」である日本のコミュニケーションは、④の段落以降で、マイナス面もあるものの、高度で、効率性があると説明されていました。

1 眉毛を上げて・賛成してしまう（説得されてしまう）

2 ア

3 イ

4 イ

5 C

6 エ

7 D

(1) 例 視線は下に下げ、目上の人の目を見ない。

(2) 例 反抗の気持ち。

(3) 例 話をきちんと聞いていないという意味。

(4) ウ

7 例 言葉以外にも、目などの表情によっても相手に自分の感情が伝わるのがわかったので、コミュニケーションのときには表情にも気を配ろうと思う。

！ 解説

1 直後に「眉毛を上げる」効果を説明しています。

2 「目は口ほどにものを言う」は、目つきは言葉と同じくらい気持ちを表すという意味です。「目には目を歯には歯を」は受けた害に相応の仕返しをする、「目から鼻にぬける」は、頭の回転が速いことです。

3 後に、モナリザの「不思議な微笑」の不思議さは、眉毛が見えないことも関係しているのではないかと述べられています。

4 モナリザの絵で眉毛が果たしている役割から、筆者は目などの表情が感情を伝えるのに役立つと考えています。

5 C 直前の「アイコンタクト」の意味が文化によって違うということ、後で具体例を挙げて説明しているので、「たとえば」が入ります。

D 前で、日本では怒られているときは相手の目を見ないという内容に対して、面接のときは相手の目を時々見たほうがよいという条件を付け加えているので、「ただし」が入ります。

6 (2) 同じ怒られるという場面でも、日本とイギリスでは視線の意味が違ってきます。

7 目などの表情が相手に感情を伝えるという文章の内容をおさえたうえで、自分の考えや思いを説明しましょう。

- ⑤ ④ ③ ② ①
- ウ
文・意味合い・ニュアンス
※「意味合い」と「ニュアンス」は順序がちがっても正解。
イ
文章を書く・前後関係
- 【例】文章を読むときにも、前後関係を意識して読むことが大切である。

! 解説

① ①〜③の段落ではいずれも「読解力」について述べていて、③の段落でその内容をまとめています。

② 直後の段落で、言葉がつながって文になること、つながり方によって意味合いやニュアンスが変わることが説明されています。

③ 言葉はつながって文になることで意味になるという直前の内容に、つながり方によって意味合いやニュアンスが変わるという内容を付け加えているので、「さらに」が入ります。

④ 「文章を書く」ことについて、「前後関係」を考慮することが大切だということが述べられています。

⑤ 「文章を読む」ことについても、「前後関係」を考慮することが大切だということが述べられています。

- ④ ③ ② ①
- イ A ウ B オ
上へ伸びる成長力・強く巻きつく力・下向き・
細く短い毛

! 解説

① (1) ③の段落までは、ツルが巻きつくものの太さについて述べられています。

(2) ③の段落に「ツルが棒を巻き込める棒の太さは……」とあります。

② A 直前の段落の内容から導ける内容が後で述べられているので、「そのため」が入ります。

B 前の段落ではツルが巻きつける「細い」もの、直後には巻きつくことのできない「太い」棒について述べられているので、「しかし」が入ります。

③ ⑤〜⑦の段落で、ツルがずり落ちない理由が三つ挙げられています。

④ ⑤・⑥の段落で述べられている「上へ伸びる成長力」「強く巻きつく力」とは別のツルがずり落ちない理由が、⑦の段落で述べられています。

① 例 クレーター状の窪地が大規模な爆発とともに出現していること。

ア

③ 容器の底・貯水する・土壤に水分を供給する

④ A エ B イ

⑤ 例 永久凍土の融解が近年急速に進んでいるのは、針葉樹が大量に伐採されていることと、地球温暖化が要因だということ。

! 解説

① —の直前の「この地」はシベリアを指しています。

② ②の段落内ではシベリアの降水量が少ないということが述べられ、次の段落で「それでも……おかげです」と述べられています。

③ 直後の「ひとつは」「もうひとつは」という言葉に注目します。

④ A 直前の段落で永久凍土の2つの機能について述べられ、直後で永久凍土が融解しているところがあるので、「ところが」が入ります。

B 直前の段落で永久凍土が融解する2つの要因のうちのひとつめ、直後でもうひとつが述べられています。

⑤ ④・⑤の段落それぞれから、永久凍土が融解する2つの要因をまとめます。

① 例 パリにあるフランス料理の本校に行くつもりだ

② イ・ウ

③ 強い絆・一方的・捨てられた

④ ウ

! 解説

① ママは、パパの「きみ、まさか行くつもりじゃないよね」という言葉に対して、「そのまさかよ」と答えているので、ママが「行くつもり」だと分かります。どこに行くつもりかは、その前のままりから読み取りましょう。

② —の前の「わたし」の言葉に注目しましょう。自分も行くのだと思った「わたし」は、ママを止めるために、「転校するのなんていや」「言葉なんかわかるわけない」と言っています。

③ —の後に注目しましょう。ママと自分は「強い絆で結ばれている」と思っていたのに、フランスへ行くという「一方的な通告」をされて、「捨てられたも同然」と感じています。

④ 最初にママからフランスに行くことが告げられた「わたし」は、「ママ！」と声をあげており、突然のことにおどろく気持ちが読み取れます。その後、ママだけが行くこと知って涙があふれそうになっている様子からは、ママと別れることへの悲しみが感じられます。さらに「あたしはぜったいみとめない」と言った「わたし」は、「猛烈に腹がたってきた」とあります。

1 物騒・電気料金・母親

2 例 ピーコが元氣そうでほっとする気持ち。

3 ピーコがやけに静かなことに気がついた

4 ウ↓ア↓エ

! 解説

1 ①、②——で始まるそれぞれのまとまりから、状況と、それに対する美月の考えを読み取りましょう。

2 ③——の前の美月の心の中の言葉に注目します。うれしそうに飛び回るピーコを見て、「よかった。元氣そうで」と思っています。また、③——の直前に、「ほっとした美月」とあるので、ピーコが元氣そうでほっとする気持ちなどまとめましょう。

3 ④——の前に注目します。美月がかこの掃除をしている間、いつもならじやまをしてくるピーコが、やけに静かなことに気がついて、ピーコがいないのではないのかと思ひ、顔から血の気が引いたのです。

4 ⑤——の後の、美月の様子や行動、言葉から気持ちの変化をとらえましょう。初めは、ピーコが台所の窓から出てしまったと思ひ、力がぬけて床に座りこんでしまいます(↓ウ)。しかし、「こうしちゃいられない」と立ちあがり、ピーコをさがしに外に出ていきます(↓ア)。そして、鳴き声が聞こえるかと期待して「ピーコー!」とよんでいます(↓エ)。

1 例 小さなおりたたみ傘が落ちたこと。

2 (1) 無視・悪意 (2) 例 耳がよく聞こえないから。

3 どんよりと

4 例 おにいさんに感謝されたことで、明るく変化した。

! 解説

2 (1) ミオの気持ちは、②——の後で、「わざと無視している」としか考えられなかった。「世界がどんな悪意をもってしようとかまわさない」などと示されています。

(2) おにいさんがふりかえらなかった理由は、「それでやっと事情がのみにこめた」の後に書かれています。

3 それまでミオは、世界が自分に悪意をもっているように感じています。しかし、おにいさんが「ありがとう」を伝えてくれたとき、「どんよりとした雨雲がきれ、あちらこちらで光を散らした」と、暗かった情景が明るく変化しています。この部分がミオの気持ちの変化に重ねられていると読み取れます。

4 ミオは、おにいさんがわざとミオを無視していたのではないと気づき、おにいさんが手の平に「ありがとう」と書いてくれて、「奇跡のように世界が変わる」と感じ、「ほほえもう」としています。世界を敵のように感じていたミオは、おにいさんの行動によって、世界を前向きな気持ちでとらえられるようになったのです。

1

例黒板アートを見るため。

2

輝はじっくりとその絵を観察した

3

ア

4

イ

! 解説

① —の後の、輝と葉麗華とのやり取りに注目しましょう。輝の「何ごとだよ?」という言葉に、麗華が「黒板アート」と答えているので、「人だかり」は、「黒板アート」を見るためにできていると分かります。

2

輝が絵を見に行っている、(中略)以降の場面に注目しましょう。輝が、その絵に興味をもっていることは、「じっくりとその絵を観察した」という行動に表れています。字数に合うように、「輝は」から書きぬきます。

3

輝が、黒板の絵を見て感じたことは、最後から二番目のまともりに書かれています。イは、「絵の善し悪しがよくわからない自分」があまりです。ウは、「自分もいつか描いてみたい」と思っているとは読み取れません。

4

この文章では、登校した際に黒板アートがあることを知った主人公の輝が、その後、一人で絵を見に行き、その絵に釘付けになっている様子が書かれています。文章を通して、黒板アートに心をうばわれている輝の姿が中心に描かれています。

1

ウ

2

一次審査も通らなかった

3

夢見・変わり者

4

才能・努力・無駄

5

イ

! 解説

① —の前から読み取りましょう。童話大賞に応募した「私」は、大賞をもらう場面を想像したり、努力賞をもらうことを期待したりして、「にやついて」います。

2

審査の結果については、「だけど、結果は惨敗」で始まるまともりから読み取りましょう。

3

② —に続く部分に注目して、「私」が童話を書くことをどのようにとらえているかを読み取りましょう。

4

「私」は、審査の結果を受けて、「多少でも文章を書くを通ったんじゃないだろうか」と考え、「ダメなものは、ずっとダメ」「努力したって無駄なことってというのはきつとある」と思っています。

5

童話大賞に落ちた「私」は、落ちこんで学校を休み、その後も、「努力したって無駄」なのではないかと考えています。文章を通して、童話を書くという夢を追っていいのか迷う、主人公のすがたがえがかれています。

1 ウ
2 ア

3 自分以外はみんな敵・一緒に強くなろう

4 例 ライバルとともに、勝ったり負けたりをくりかえしながら、一緒に強くなっていきたいと思う気持ち。

5 (1) 奨励会・プロ

(2) どれほど苦しい道でも、絶対にやりぬいてみせる

6 例 どんなに困難でも、ライバルとともに強くなって、プロ棋士になることをちかう「ぼく」の姿。

！解説

① 直後の一文から気持ちを考えましょう。「呆然」とは、予想しないことが起こり、あっけにとられる様子を表します。

② 「キツネにつままれる」とは、意外なことが起こって、わけが分からず、ぼかんとすることを表します。

③ ①の前後に注目しましょう。「一緒に強くなろうよ」と言った「ぼく」に対して、山沢君は、「将棋では、自分以外はみんな敵なんだ」と言っています。

④ ①の前後からとらえましょう。「ぼく」は山沢君に、「一緒に強くなろう」「盤を離れたら、ライバルでいい」と言い、そのラ

イバルたちと、「勝ったり負けたりをくりかえしながら、一緒に強くなっていけばいい」と思っています。

⑤ (1) 「それ」の内容は、すぐ前の文から読み取りましょう。

(2) ⑤——をふくむまとまりの最後の一文に、「(それが)どれほど苦しいやりぬいてみせる」とあります。

⑥ 先生に認めてもらえていると知った「ぼく」は、山沢君と話しながら、ライバルと一緒に強くなっていきたいと感じ、奨励会に入っ
てプロ棋士になることを、どんなに困難でも必ずやりぬくと決意
しています。この内容を、指定された言葉を使ってまとめましょう。

1 それが昨夜

2 イ

3 その瞬間、

4 例明日、自転車で乗ってみて、楽しければ乗り続け、
楽しくなければ乗るのをやめること。

5 (1) ウ

6 (2) 最高・楽しい

例自転車に乗る喜びを感じ、自転車で乗り続けるという自分の進む道を見出した主人公の姿。

! 解説

1 文章の前半は、洋が夜、風呂に入っている場面、後半は、次の朝、自転車で乗って出かける場面です。場面が変わる部分を探すと、「それが昨夜だ」という表現が見つかります。ここから、朝の場面です。

2 ①——の前後から気持ちを読み取りましょう。洋は、「自分で自分のコントロールができなくなっ」て、「気持ちが悪くて仕方がない」と感じており、それを「なんとかしないと」と思っています。悩んでいた洋の心情は、「馬鹿馬鹿しい。〜悩むことなどないの」の部分で変化が読み取れます。直前の「その瞬間、体の中にあっ

たつかえ棒が折れた感じがした。〜伝わってくるようだった」に注目します。「つかえ棒が折れた」は、悩みがふつきた様子をたとえていると読み取れるので、この部分をぬき出します。

4 風呂に入っている洋の心情が変化して、どのような決意をしたかは、悩みがふつきた、「悩むことなどないの」の後から読み取りましょう。自転車で乗ることについて、「楽しければ、乗り続けられいし、楽しくなければ、下りればい」と考えています。

5 (1) 自分の体を、動力のもととしてとらえていることから、余計なことは考えずに自転車で乗ることだけに集中している様子が読み取れます。

6 主人公の洋は、文章の前半で悩みながら自転車で乗ってみることを決意し、後半では自転車で乗る喜びを感じています。文章を通して、悩みながらも、自転車で乗る喜びを感じ、自転車で乗り続けるという自分の道を見出した主人公の姿がえがかれています。

- 1
イ
物事・価値観・仕組み・世代
- 2
筆者の主張…①・②
- 3
主張の説明…③・④・⑤
- 4
まとめ…⑥

解説

① ②の段落で「サステイナビリティをこのようにとらえ直し、再定義」と述べています。この「このように」が、①の段落の内容を指しています。

② 「まもる」は③の段落、「つくる」は④の段落、「つなげる」は⑤の段落で説明されています。段落ごとに話題が変わっていることに注目しましょう。

③ ⑥の段落で、サステイナビリティを「まもる・つくる・つなげる」ととらえると「社会に広く浸透しやすくなる」と述べています。

④ ①の段落でサステイナビリティを再定義して、②の段落で新しい和訳を示しています。これが筆者の主張です。②で解説したように、③～⑤の段落で「まもる」「つくる」「つなげる」について詳しく説明し、⑥の段落で主張をまとめています。

- 1
クセ・脳
- 2
脳活動のパターンへ脳の活動パターンへ
- 3
ウ
- 4
例 生まれてからずっと自己流で脳を使っている
- 5
ア

解説

① 「これ」とあるので、前の文章から答えを探します。②の段落直前の文章を指しています。

② ④の段落で、フィン博士らの研究について具体的に説明しています。

③ ⑤の段落ははじめの「まるで指紋のように」という言葉をヒントにします。脳の活動パターンを指紋にたとえているので、「脳紋」が正解です。

④ ⑦の段落で、脳の個人差について説明しています。⑦の段落最後の「だから、個人差が出やすいのです。」に注目します。

⑤ ①・②の段落では、この文章での話題を示しています。②の段落が読者への問いかけになっていることに注目しましょう。③～⑥の段落では、脳の活動パターンについて詳しく説明しています。最後の⑦の段落で、脳に個人差が出やすい理由について筆者の意見を述べて、まとめています。

1 イ 言葉へ言語・文化

3 話題の提示と問いかけ①

具体例 …②・③・④

問いの答えとまとめ …⑤

④ **例** 私は将来、いろいろな国の人といっしょに働く仕事をしたと考えている。そのため、共通語として英語を学びたい。

! 解説

① 英語について、「汎用性が高い言語」や「母語ではない言語」と説明しています。

② ⑤の段落に、この例を通して筆者が伝えたいことがまとめられています。「このように」という言葉が、例を指していることに注目しましょう。

③ ①の段落の最後で、「もう外国語を学ぶ意義はなくなるのでしょうか」と問いかけています。②④の段落では、筆者自身が心がけていることや友人とのかかりから感じたことを具体的に述べています。この経験を踏まえて、⑤の段落では、問いの答えとして、外国語を学ぶことの意義を主張してまとめています。

④ 筆者の主張や、自分自身の経験から考えたことを書きましよう。

1 「私」の視点

② a 体験 b 感じた

③ ア

④ ウ

! 解説

① 【文章】の第一段落で、文章には「私」の視点で書くものと、客観的な視点で書くものがあると説明しています。そのうえで、紀行文やエッセイは「前者」であると述べているため、「私」の視点で書くものであることが分かります。

② a は第一段落、b は第三段落から書きぬきます。言葉のつながりに注意しましょう。

③ 文章の中で「私」の視点と「客観的な視点」が混じっている例を考えます。アは、「客観的な視点」で書かれた文章(道具の使い方(説明)の中に、「私」の視点(書き手の気持ち)が混じっている例です。イとウは、「文章」で説明されている視点とは関係がありません。

④ 文章の中で「私」の視点と「客観的な視点」が入り混じってしまふことを防ぎ、文章を読みやすくするための方法を示す言葉です。

1 すばらしい

2 A 月

B 蛍

C 雨

3 イ

4 日本語の美しさ・感性の鋭さと気つよさ

5 具体的・列挙・自分の世界

! 解説

1 【文章1】〈原文〉は、季節ごとに作者がすてきだと感じる時間帯についてつづった文章です。【文章1】〈現代語訳〉の初めには、「春は明け方がすばらしい」とあります。

2 【文章1】〈現代語訳〉で使われている言葉が、【文章1】〈原文〉のどの言葉に当たるのかを確認しながら読みましょう。

3 【文章2】の筆者は、「日本語の美しさ」を感じる表現の例として、「紫だちたる雲のほそくたなびきたる」を挙げたうえで、「音のリズムもいい」と述べています。

4 【文章2】の第一段落に、「魅力のひみつは、二つある」とあります。「一つは」「もう一つは」という言葉に注目し、二つの魅力を言い表している言葉を探しましょう。

5 【文章2】の最後の段落で、「文章2】の筆者は、清少納言の「具体的なものを列挙していく書き方」に対して、「自分の世界を相手に知らせる」効果を生み出していると評価しています。

1 自分の器・自分以外の人・違う意見

2 イ

3 【文章1】…イ 【文章2】…エ

4 変化

! 解説

1 「入力と出力を繰り返す」という言葉の前に「このように」とあるため、まずは直前の文章を確認しましょう。また、「入力」という言葉は、コンピューターなどに情報を入れることを表します。「出力」は、その逆の意味で、情報を外に出すことを表します。

2 直後に「そうではありません」と、前に述べたことを打ち消しているため、「しかし」が入ります。

3 【文章1】は、「歴史観というものは」という言葉から始まります。また、第三段落に「みなさんは、まず」とあることから、これから歴史観を持つという人に向けて書かれた文章であることが分かります。【文章2】は、第一段落で「歴史とは何か、という問い」を考えることが「歴史を勉強するということ」をより深めていくと述べています。

4 【文章1】第七段落で「歴史観は変わるものだ」とあり、【文章2】第三段落では、歴史は「つねに変化しているものだ」と述べられています。それぞれの文章から、筆者の主張をとらえましょう。

①

イ

②

A 五～七人

B 全体

C 意見

D 五～七人

③

集団・動かして

④

ウ

⑤

効率・緊急・政治

⑥

【例】学級で、発言のしかたや順番のルールを決めてから話し合いをしたところ、スムーズに話し合いが進んだ。この経験から、意見を述べるときのルールをしっかりと作ることが大切だと考える。

!

解説

①

前後の文章をよく読んで考えましょう。□の前では、「なるべく多くのひとの意見を広く聞くことが大事」と述べられています。

一方、後では、「緊急時はどうでしょう?」という問いかけがあり、「たくさんひとたちで話し合っても効率がよくありません」と述べられています。□の前後で逆のことが述べられているため、接続語「でも」が正解です。

②

【文章1】第三段落の内容を表にまとめます。第三段落では、「まず五～七人までの中心となるグループを作り」、その下に「さらに五～七人ずつのグループを作」と述べられています。よって、AとDには「五～七人」が入ります。「そして、グループごとにまとめた意見を持って」と述べられているため、Cには「意見」が入ります。「中心グループが集まり、全体の意見を調整する」と述べられているため、Bに「全体」が入ります。

③

「これ」などの指示語の内容を問う問題では、まずは直前の文章に注目しましょう。ここでは、「政治の前提となる集団ができたなら、次は上手に集団を動かして」いくことを指しています。

⑤

【文章1】と【文章2】が、どちらも集団でものごとを決める方法について述べている文章であることをとらえましょう。そのうえで、【文章1】【文章2】に共通しているのは、「効率」よくものごとを決める方法を読者に提案している点です。しかし、【文章1】と【文章2】では、「効率」よくものごとを決めようとする理由がちがっています。【文章1】は、「災害に対応するときのように、とても急がなければならぬ」「緊急時」を想定しています。一方で、【文章2】では、「決める」ことが「政治にたずさわる人間の大事な仕事」であると述べているため、「政治」においてものごとを決める場面を想定していることが読み取れます。

⑥

あなたがこれまで経験してきた、集団での話し合いやものごとを決める場面をふり返りながら、自分の考えを書けていけば正解です。

1 本・暮らしていること

2 知っている以外・知ること

3 例 一冊の本にできるだけ時間をかけ、ゆっくりと読むこと。

4 ア

5 ウ

6 例 本を読むことのよさは、自分がこれまで知らなかった世界に出会い、好きなことが増えていくことにあると思う。私自身も、小さいころに読んだ本がきっかけで動物に興味を持ち、今でも動物が大好きだからだ。

！ 解説

1 第二段落から書きぬきます。「逃げ場所」とは、どこから「逃げ」ることを指しているのかを考えましょう。「『今ここ』以外に自在にいきぎでできること」という表現から、筆者は、本を読むことで、「今ここ」以外の世界に行くことができるかと述べていることが分かります。この「今ここ」を言いかえた言葉で、解答らんの字数に合うのは、「今暮らしていること」です。

2 筆者が「旅」という言葉を使っているのは第三段落です。しかし、第三段落の内容をふまえて、「旅」と「本を読むこと」に共通する「効

用」について述べているのは第四段落です。第四段落の内容をまとめた文になるように、合う言葉を書きぬきましょう。

3 「スロー・リーディング」という言葉の意味について筆者が説明している部分を探します。「文章2」の最初で、「『スロー・リーディング』とは、一冊の本にできるだけ時間をかけ、ゆっくりと読むことである。」という一文があり、これが「スロー・リーディング」という言葉の説明です。例のように、この一文の内容をまとめて書いていけば正解です。

4 「文章2」が、二種類の読書のしかたについて、旅行にたとえながら説明する構成になっていることをとらえましょう。「速読」は、「出張で訪れた町を、空き時間のほんの一、二時間でざっと見て回る」旅にたとえられており、「スロー・リーディング」は、「一週間滞在して、地図を片手に、丹念に歩いて回る」旅にたとえられています。そのうえで、筆者は、スロー・リーダーが「本の中の様々な仕掛けや、意味深い一節、絶妙な表現などを」楽しむことができるかと述べ、速読はそれらを「みんな見落としてしまっている」ために「単に読んだという事実だけ」が残ると述べています。この点でスロー・リーディングが「得をする読書」であると説明しているため、アが正解です。

5 【文章1】と【文章2】の共通点は、本を読むことと旅を重ね合わせながら筆者の考えを説明している点です。そのため、ウが正解です。あなたが思う本を読むことのよさと、その理由について書いていけば正解です。あなたにとって、本を読むとどのようなよいことがあるかを考えてみましょう。

1 帰ってくる・新横浜駅・迎え

2 ウ

3 ア・ウ

4 待っていてくれる人・ありがたい

! 解説

①——に続く部分に注目して読み取りましょう。

②「新横浜駅で新幹線から下車した乗客は、く改札の『むこう側』にいる人々の姿を見る」とあるので、②——の人々は、「新幹線から下車した乗客」が見る人々です。また、「改札の『むこう側』にいる娘たち」などの表現から、「改札の『むこう側』にいる人々」は、電車から降りてくる乗客を迎えに来て待っている人々だと分かります。

③「人待ち顔を隠そうともせず」に改札の『むこう側』に佇んでいる数多くの人々を階段の上から見ていると、く私は考えてしまうのだ」とある文から読み取りましょう。

④③——の前の文に「と実感する」とあるのに注目して、筆者が実感していることを読み取りましょう。

1 カッコよくない彼

2 三・佐佐木幸綱・歌集〈短歌〉

3 例佐佐木幸綱に近づきたくて、短歌を作りはじめたから。

4 単純なこと

5 大切・生かして・あらわれる

! 解説

① 筆者は二つ目のまとまりで、短歌を選んだ自分に向けられる「なぜ」を、「ちっともカッコよくない彼に惚れこんでしまった女へ向けられる『なぜ』にも似ている」と言っています。

②「出会いは、いとも単純」で始まるまとまりから読み取りましょう。

③①——の直後の文に、理由が書かれています。

④ 筆者が自分の体験をふまえて考えを述べている最後のまとまりの、「出会いと動機は、」に続く部分からとらえましょう。

⑤ 自分の体験をふまえた筆者の考えは、最後のまとまりにまとめられています。□の前後に注意して、当てはまる言葉をとらえましょう。

1

例世界は「ここ」だけではなく、**途方もなく広い**らしいということ。

2

内側・外側・知らない

3

ウ

4

例自分の世界を大きく広げてくれるもの。

! 解説

1 —の直前から読み取りましょう。

2

2 —の前のまとまりの「〜総動員して私にささやきかけたのだと思う」に注目しましょう。そのあとに、どのようにささやきかけたのが書かれています。

3

3 旅をすることについての筆者の考えがまとめられている最後の三文に、「実際に自分で出向いていき、知るしかない」「旅をしたと思うとき、いつも、本当にそこに世界があるのかどうか、知りたいだけ」とあることから考えましょう。

4

4 筆者は、本当にそこに世界があるのか確かめるために旅をします。その考えをふまえて、あなたが旅をどんなものだと思うかを書きましょう。

1

イ

2

桃の実

2

ア

1

(迷子の)セミ・(さびしそうな)麦わら帽子・

3

ア

(ぼくの耳にくっついて離れない)波の音

※順序がちがっても正解。

! 解説

1 第一連と第二連は、同じ組み立てになっています。

2

2 祖母の「合せた掌」は、「ように」という言葉を使って、「桃の実」にたとえられています。

2

2 人ではない「夏休み」について、「いつってしまった」と人に見立てて表現しています。

2

2 「夏休みの忘れもの」は、「忘れものをとりにさ」の最後の最後の連に書かれています。

3

3 この詩では、第一連で夏休みが過ぎてしまったことが示され、第三連では、もう一度夏休みにもどってきてほしいと呼びかけています。詩全体を通して、楽しい夏休みが終わった後の切ないさびしさが表現されています。

1

(1)

③

(2)

②

(3)

⑤

2

青・白・例悲しさ

3

すがしといねつたるみたれども

2

①

季語

すみれ草

季節

春

②

季語

赤蜻蛉

季節

秋

2

ところてん・煙

3

緑・白・生命力

! 解説

1

①

において感じているのは、「花橘の香をかげば」とある③です。音を聞き分けているのは、「くびのすゞがね」とある②です。

⑤は、川面を風が波立たせる様子を「川面をなでる風の手のひら」とたとえています。このように、人ではないものを人のように表現する表現方法を、擬人法といいます。

2

「空の青」「海のを」と、白鳥の「白」を対比させ、白鳥が何にも染まらずにただよっていることを哀しく感じ、自分の悲しさと重ね合わせています。

3

④の下の句をふつうの語順にすると、「たるみたれどもすがしといねつ」となります。

2

②

「ごとく」は、「くのように」という意味です。

1

地下・竹の根・地上

2

生え

3

ウ

4

りんりん

5

かすか

6

例伸びるときも割れるときも、いきおいのよい竹は、すがすがしいと感じました。

! 解説

1

【観賞文】に、「まずは、土に埋まっている部分から」「地面の下では、竹の根がどんどん生えています」「後半では、く地上にどんどん伸びていく竹のようすが描かれています」とあるので、この内容に合う言葉を詩から書きぬきましょう。

3

Aには、竹の細い根っこを見るときのようすを表す言葉が入ります。

4

詩の後半で節について書かれている部分は、「凍れる節りんりんと」です。

5

地上の竹の立派な節のようすを表す「りんりん」と対比しているのは、地下の細い根のようすを表す「かすか」です。

6

「竹」は、竹がいきおいよく成長していくようすを描いた詩です。詩の内容や【観賞文】の説明、表現の工夫をふまえて、竹について感じたことを書きましょう。

①

お盆・饅頭・枕もと

(2) こわがる

②

例 こわいと言っていた饅頭をむしゃむしゃ食べている様子。

③

例 みんなが饅頭を買ってくるので、饅頭が食べられる

④

イ

! 解説

①

(2) 要約部分に、「松がこわいと言った饅頭」とあることをふまえ、饅頭を見た松の様子をのぞいて「アワふいてこわがってやがら……ああいい心持だ」と言っていることから、みんなは松が饅頭をこわがると思つて枕もとに置いたと分かります。

②

「こわいこわいっていいながら、むしゃむしゃうまそうに食つてるよ」などから、松がこわいと言っていたはずの饅頭をむしゃむしゃ食べている様子を見て、このように言つたと分かります。

③

松が饅頭をこわいと言つたため、みんなが松をこわがらせようと饅頭を買ってきた結果、松は饅頭を食べることができました。

④

饅頭がこわいと言つた結果、饅頭を食べられたので、同じように考えると、「濃いお茶が一杯こわい」と言えば、濃いお茶が飲めるはずで、そこで松は、濃いお茶が飲みたかつたために、このように言つたと考えられます。

①

ア

②

一兆六千へー6000へ

③

四千亿

④

① イ ② ア・ウ

! 解説

①

棒グラフの下の部分に注目しましょう。「紙の本や雑誌」の売り上げは二〇一六年で一兆四千亿円をこえていましたが、二〇二一年では約一兆二千億円となり、だんだん減っています。

②

Bには、本の全体の売り上げが最も減つた時期の数字が入ります。本全体の売り上げが最も減っているのは、二〇一八年、二〇一九年です。それまではこえていた一兆六千億円を下回っています。

③

二〇二一年における電子書籍の売り上げの数字が入ります。グラフで二〇二一年の電子書籍の売り上げを表す部分を見ると、めもり二つ分以上のばがあることが分かります。めもり一つ分で二千亿円なので、めもり二つ分ということは四千億円です。

④

直前のやりとりに注目しましょう。紙の本のいいところは、森山さんが、電子書籍のいいところは、田中さんと先生がそれぞれ述べています。

1 ヒートアイランド現象・夏の昼間

2 ア

3 B 都市部 C 郊外

4 イ 5 ア

6 つくば市・イメージ・冬の夜間



解説

1 第一段落に注目しましょう。『ヒートアイランド現象が起きるのは、夏の昼間』と思っている人がたくさんいます。でも、それはほんとうでしょうか?と述べられています。

2 Aの前に「つまり」とあるので、それよりも前の部分に注目しましょう。

3 グラフの赤色の線は都市部の気温、青色の線は郊外の気温を表しています。夜の気温を比べると、赤色の線が上にあるので、都市部の気温が高いことがわかります。

4 温度差を表すグラフは右側の目盛りで見ます。一月の都市部と郊外の気温差を見ると、2℃以上あることがわかります。

6 文章では、つくば市の都市部と郊外の気温を観測した結果から、ヒートアイランド現象が、夏の昼間に起こるといイメージとちがって、冬の夜間に起こっていることが説明されています。

1 北門

2 ア

3 エ

4 例うさぎやモルモットにえさをやったり、だっこしたりできる。

5 二時五十分

6 ク

7 キリン・カンガルー・ニホンザル

※順序がちがっても正解。



解説

1 ゆうかが、「ペンギンやホッキョクグマは最初に見た」と言っていることから考えましょう。

2 ゆうかが「レストランを出て、ライオンやレッサーパンダを見て」と言っていることから考えましょう。

3 「カバの前」「ゾウも目の前にいる」という言葉から考えましょう。

5 ゆうかたちは、ふれあい広場の体験が三時から始まるので、その十分前に集まることにしました。

6 ゆうかは、エの場所からトラを見て、ふれあい広場に行くので、クの場合のトイレを利用すると効率的です。

7 は虫類館からゾウの場所に行くまでにキリン、ゾウを見た後に、カンガルーとニホンザルの前を通ることになります。

- 5 4 3 2 1
 (1) d A ② △
 E B ③ イ
 A ア
- (2) 親切・意地悪・好む
 例 生後まもない赤ちゃんが利他的にふるまう人を見抜いている点。

! 解説

- ① 「利他的」は、他人の利益を考える様子のことであることをふまえて、○△□の説明に注目します。第三段落に「○さんが急な坂道を登ろうとしているところに△さんが現れ、○さんが坂道を登るのを押し上げてやります」とあります。
- ② △が○を坂の下から押しているのがa、□が○を坂の上からじゃましているのがbです。
- ③ △は○を助けていて、□は○をじゃましています。
- ④ (1) 赤ちゃんに親切な△、意地悪な□を見せた結果、親切な△を好むことが分かったという研究でした。
- ⑤ (2) 第一段落に注目しましょう。「ヒトが生後早い時期から利他的にふるまう他者を見抜き、好む」とあります。

- 5 4 3 2 1
 ウ
 工場や道路、住宅
 減ってへ減少してへ
 七〇へ七十へ
- (2) 例 農産物の輸出額がのびているから。
 品種改良・栽培・安全性・品質

! 解説

- ① 耕地面積の変化のグラフから、田が減っていることが分かります。農業で働く人の推移のグラフから、65歳以上の割合が増えていますが、農業で働く65歳以上の人自体は減っています。農産物の輸出額のグラフから、農作物の輸出額が増加していることが分かります。
- ② 農業で働く人の推移のグラフから読み取りましょう。農業で働く人が年々減っていることが分かります。
- ③ 二〇二〇年における農業で働く人のうち、65歳以上の人の割合は69・6パーセントです。
- ④ (1) 農産物の輸出額のグラフを見て、林田さんが「どんどんのびていますね」と述べています。
- ⑤ (2) 先生の言葉から書きぬきましょう。

① 中央海嶺

② (1) 北アメリカプレート・フィリピン海プレート・ユーラシアプレート ※順序がちがっても正解。

③ (2) 例 一年に六センチメートルから八センチメートルの速さ。

④ イ

⑤ ウ

! 解説

① 第三段落に「中央海嶺と書かれた場所がありますね。プレートが生まれるところです」とあります。

② 図の中で日本はほぼ真ん中にあります。その近くにあるプレートを考えましょう。

③ 第二段落に、プレートがどれくらい「ゆっくりと」動いているかが説明されています。「一年に六センチメートルから八センチメートルずつ、ゆっくり、ゆっくりプレートが動いて」とあります。

④ 「ハワイが日本に近づいてきている」とあるので、太平洋の中央海嶺から日本海溝に向かって、プレートが動いていることがわかります。

⑤ プレートが「一億年以上かけて太平洋を旅し」とは、プレートが動いていることを表しています。その間に、プレートにマリンズノーがふりつもります。

① ア

② A・C

③ 例 勉強する時間がなくなるのではないかとということ。

④ 例 自由だとおさえがきかなくなってしまっているのではな

⑤ C

⑥ イ

! 解説

① 記事の中のグラフはインターネットの利用時間についての調査結果なので、利用率については分かりません。

② A・Cさんは、今の青少年がインターネットのせいで勉強していないのではないかと否定的な意見をもっています。

③ 自由だと問題があるのではないかとという反論や、子どもには有害な情報もあるのではないかとという反論が考えられます。

④ 勉強していないというCさんに対して、インターネットを使って勉強しているという内容の反論をしています。

⑤ インターネットの利用状況ユウジョウのグラフから、勉強にインターネットを利用している青少年が半数をこえていることがわかります。インターネット上のやりとりなので、Eさんに本当に小学生の子どもがいるかは分かりません。また、青少年のインターネット利用時間がのびても問題がないかは、このやりとりだけでは分かりません。

① 資源の節約

お湯・例たくさん石油を使ってしまう。

② (ガラスの)びん

例捨てなければならぬ食べ物が増える。

③ ごみを少なくする配慮やリサイクル

・環境にやさしい製品の購入 ※順序がちがっても正解。

④ イ・ア・エ

⑤ 例ごみ問題に関心がある人が少ないわけではないので、環境にやさしい製品がどれなのか分かりやすくするような見せ方を工夫すれば、リデュースにつながると思います。

! 解説

① 「リサイクル」の本来の目的にかなうとは「かぎらない例として、第三～五段落の事例が挙げられ、第六段落で「どうすれば資源の節約になり、しかも、プラスチックごみで汚れていない地球でくらすことができるのか」と述べられているので、「リサイクル」の本来の目的が「資源の節約」だと分かります。

② 第三段落で挙げられているのは、プラスチック製品をお湯で洗って捨てることによって、「かえってたくさん石油を使ってしまうことになる」事例です。第四段落で挙げられているのは、ペットボ

トルの代わりにガラスのびんを使うことで、「より多くのガソリンを使うこと」になる事例です。第五段落で挙げられているのは、30 食べ物を含むプラスチックを使わなくすることで、「食べられずに捨てなければならない食べ物が増える」事例です。

③ グラフのこう目に注目しましょう。

④ グラフから読み取りましょう。「環境にやさしい製品の購入を心がけている」人の割合は二〇一三年では七十パーセントをこえています。二〇二二年では七十パーセントを下回っています。また、「環境にやさしい製品の購入を全く心がけていない」人の割合は二〇一三年では二十パーセント未満でしたが、二〇二二年では二十パーセントをこえています。このことから、意識が低くなっているといえます。

⑤ 「リデュース」はごみを減らすこと、「リユース」はくり返し使うこと、「リサイクル」は再び資源として利用することを表しています。「3Rに関する意識の変化」のグラフから、「ごみ問題に関心がある」人や「ごみを少なくする配慮やリサイクルを心がけている」人の割合が決して低くないことが分かります。しかし、「3R」という言葉がそれほど知られていなかったり、「環境にやさしい製品の購入」に対する意識が低くなっていたりします。このようなことから、どのような取り組みが必要なのか考えましょう。

1 例 海人にたすきをかけるように伝えるため。

2 イ

3 ウ

4 例 自分も駅伝を走りたかったという思い。

5 テレビ中継・沿道・湊

6 ア

7 例 走る姿を見せられず悔しい気持ちだったが、その気持ちを軽くしてくれた父親に感謝する気持ちになった。

！解説

1 ① —のあとに注目しましょう。湊は、海人がなかなかたすきをかけないので、沿道を全力で走りながら、海人に「たすきつ、たすきつ」とさげんでいます。

2 試合前の海人のテンションが高いので心配になった湊は、海人に「四番だぞ」と念をおしています。「念をおす」という意味で「□を刺す」の形の言葉は、「釘を刺す」です。

3 ② —のあとの部分に注目しましょう。海人が選ばれたときは、疑問を感じた湊ですが、海人が「まったくびくついて」いなかったため、勢いが大切な駅伝の前半には、「海人のほうが適している」と思っています。

4 ③ —の前の「でもやっぱ、走りたかったかな」からとらえましょう。

5 湊の「テレビに映ってたの？」という言葉に父親は、「沿道を誰かが走ってきたから、そっちのほうに目が行った」「湊だった」と言っています。父親は、テレビ中継に映る湊の姿を見て、電話をしてきたのです。

6 父親の「『湊は、昔から注意深いからな』と、誇らしそうな声を出した」「走るよりも大きな仕事をした」などの言葉や様子から、チームの危機を防いだ湊を誇らしく思っていることが読み取れます。

7 父親の言葉を聞く前は、湊は、「走る姿を見せたかった」と悔しい気持ちですが、父親の言葉を聞いて、「ありがとう」と言っています。悔しい気持ちを軽くしてくれた父親に感謝する気持ちでいると読み取れます。

1 平和・自然と存在するもの・

大切に守らなくてはならないもの

2 人間の尊厳

3 例 自分が自分らしく生きるための自分の「核」のようなもの。

4 (1) 私にとっつのです。

5 (2) チームワーク

6 例 私は学校の先生になりたいです。先生たちは話し合ったり、協力したりして、子どもたちに伝える授業を考えるそうです。私もチームワークを大切にする先生になりたいです。(79字)

解説

1 ①——に続く部分に注目しましょう。「世界の多くの場所で、『平和』というものは苦勞してつくり出し大切に守らなくてはならないものであって、自然と存在するものではない」とあります。

2 「人間の本当の価値」とにた意味の言葉を探しましょう。同じ段落に「人間にとって一番大切なもの」とあります。その説明として、「人間を人間たらしめるもの、『人間の尊厳』と述べられています。

3 「個性」を言いかえた表現として、「あなた自身のしっかりした個性」があります。その前後に注目すると、「あなたがあなたらしく生きていくには、あなた自身のしっかりした個性、『核』のようなものが必要です」とあります。この部分をまとめましょう。

4 (1) 筆者が自分の仕事について語っている第三段落に注目しましょう。私にとって国連での仕事は、生来それほど思索的でも哲学的でもなかった私に、人間の存在についての根本的な疑問や、私たちが住む世界について深く考え、学ぶ機会を与えてくれ、それによって私の人生を豊かにしてくれるものです。」と述べられています。ここに筆者の国連での仕事についての考えが表れています。

(2) 仕事において大切なことは第六段落に述べられています。「あとは仕事の上で大切なのは、」で始まる文に注目しましょう。

5 第五段落に「実は多様な価値観にも多くの共通点があることがわかり、そうであればこそ私たちは尊重し合い共存・共生できると述べられています。

6 「自分の特性や専門」「社会に貢献」「自己成長」「チームワーク」「誠実」「正直」「まじめ」など文章で出てきたことをふまえて、自分のなりたい仕事やしてみたいことにつなげて考えましょう。